

参加のまちづくりと理科授業の意義

【内容】こんなことをお話しします。

- ① 自己紹介
- ② 住民意見を反映させた計画策定等の意義
- ③ 技術士会の理科授業（液状化の実験）
- ④ まとめ



人口減少や高齢化、核家族化が進展する中で、地域の人たちと交流したり、考え方を共有したりするなど【参加のまちづくり】の重要性が増しています。近年、頻発・激甚化する自然災害に対しても、日ごろから地域で備えたり、メカニズムを理解したりすることが大切です。技術士会で行っている理科事業では、科学の仕組みを実験や体験を通じて伝えています。参加のまちづくりの一環として、先日、理科授業で「液状化の実験」をしてきましたので、その時の様子を含めて、お話しします。



講師：深澤 陽子（ふかざわ ようこ）

技術士（建設部門・総合技術管理部門）
博士（農学）
住民意向を反映させた各種行政計画の策定、ワークショップによる合意形成や社会実験等によるまちづくり活動に携わる

- ・日時 令和6年4月18日(木) 14:00~15:30
- ・場所 シニアライフ支援センター『くれば』
オンライン ZOOM のハイブリッド
- ・ミーティング ID : 908 290 8123
パスコード : 908194